

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和3年7月29日

村山 章

アメリカでは3人に1人がフリーランスと、ネットに載っていたので調べてみると、厚生労働省「第8回労働政策審議会労働政策基本部会 資料(18年)」に労働力人口に対する比率35%という数値がありました。ちなみに同資料で日本は17%、請負業務のマッチングサービスを手がけるランサーズ(株)の「フリーランス実態調査 2021」によると、日本は24%とありました。この差はフリーランスの定義も影響しているようです。内閣府「政策課題分析シリーズ 17～日本のフリーランスについて(19年)」ではアメリカのフリーランスのうち、企業・組織に属さず独立事業者として収入を得る本業フリーランスは就業者全体の6.9%、日本の本業フリーランスはその4割程度と記されていました。この本業フリーランスにはアーティスト、デザイナー、写真家、コピーライター、エンジニア、美容師、講師などさまざまな職種が含まれますが、最近はIT系先端テクノロジー関連も増えているようです。技術革新が著しいので知識・スキルの習得が大変な領域でしょう。

こうしたフリーランスの日米格差には文化の違いが影響していると思います。日本では一生懸命に勉強させて少しでも大きな会社に入れば、終身雇用だから一生安泰という考えがまだまだ根強いです。入社後に長い研修を受けたり、適性を見て配属が決まったりもします。アメリカは個人主義、合理主義の国ですので、正社員であろうと、必要に応じて容赦なく解雇が実行されます。自分のキャリアは自分で築くという考え方が一般的でみんなが専門職のような感覚です。

時代は変化しています。働き方改革で働き方が多様化しているからフリーランスも拡大しているのだと思います。ただ、お一人で努力をしても1倍にしかなりませんが、会社という組織で皆が力を合わせて努力すれば、10人の努力が20倍になる可能性があるというのが、私の考えです。そちらを重視したいと思います。

